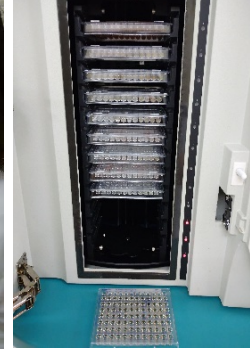
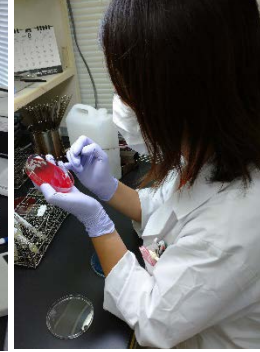
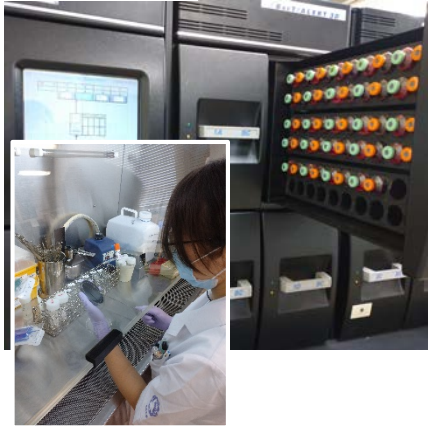




血液培養検査は微生物検査の中でも診断的価値の高い重要な検体です。
本検査は細菌、真菌感染症における、最も確実な起炎菌の検索手段です。

検査の流れ

1. 受付
2. 培養開始
3. グラム染色
4. 菌名の同定
5. 薬剤の感受性



ラベル貼り付け位置に注意！

2020年3月10日より、血液培養ボトルのラベルが新しくなっています。ラベルの添付位置の間違ひにより、オーダーラベルやボトルバーコードの読み取り不良が発生し、検査の遅れが生じます。正しい位置にラベル添付をお願いします。

ここに貼る



ご不明な点があれば微生物検査室までご連絡下さい(内線7388)

採取時の注意点について

- 清潔操作の徹底 → 汚染を防ぐ
- 複数セット採血 → 汚染の判断感度を上げる
- 必要量の採血 → 感度を上げる

患者の体重と採血量は次のように定められています

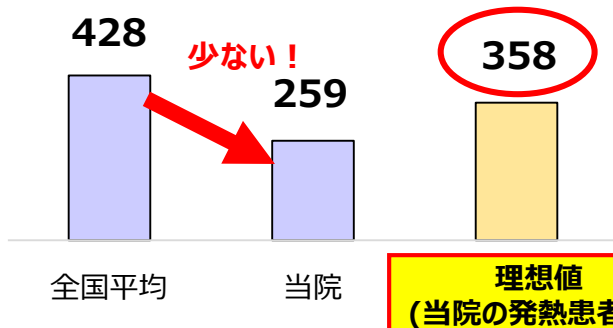
1. 体重1kg以下の乳幼児：2mL/1回
2. 体重1.1kg～2kgの乳幼児：2mL/2回
3. 体重2.1kg～12.7kg：1回目/4mL、2回目/2mL
4. 体重12.8kg～36.3kg：10mL/2回
5. 体重>36.3kg：20～30mL/2回

Cumitech 血液培養検査ガイドラインより

当院のボトルでは1ボトル10mLまでの分注が理想です

血液培養検査はタイミングが重要！

血液培養 提出数 (月平均)



- 当院の血液培養採取数は全国的に少ないです
- 発熱症状は血液培養検査を考える重要なタイミングです
- 発熱の原因探求には血液培養検査を強くお勧めします
- 抗菌薬投与前に採取し、確実に起炎菌を検索することで確実な治療につながります